

第15回千葉県資源評価検討会議 会議録

- 1 開催日時 令和4年2月15日(火) 午後1時30分～午後15時30分
- 2 開催場所 WEB会議
- 3 出席者 <構成員>
東北大学大学院農学研究科 教授 片山 知史
県農林水産部水産局漁業資源課長 小嶋 一隆
県水産総合研究センター次長(資源研究室長事務取扱) 梶山 誠
<その他>
県関係職員16名

4 検討事項

- (1) 千葉県資源管理方針の策定状況等について
- (2) 令和3年度千葉県沿岸重要資源の資源評価(案)について
- (3) その他

5 検討事項の概要及び検討の結果

(1) 千葉県資源管理方針の策定状況等について

事務局から、千葉県資源管理方針の策定状況及び今後の個別方針策定に係る方向性と資源評価との関係等について、前回会議の際に課題とされた新漁業法の考え方を踏まえた評価対象魚種の再整理を含めて説明があった。

構成員及び出席者からの意見等は以下のとおり。

- ・構成員から、対象魚種の選定に係る総合評価において、「B」「C」の違いを明確にするべきとの意見があった。資源管理方針で新たに対象とする23魚種の位置付けの確認と資源管理方針の内容については本会議において議論できる機会を設けるべきとの提案があった。
- ・担当者から、農林水産統計の市町村別データが今後提供を受けられなくなることが課題として挙げられた。

(2) 令和3年度千葉県沿岸重要資源の資源評価(案)について

事務局から趣旨説明を行った後、資源評価対象種について各担当者から令和3年度の資源評価票、評価票に準ずる資料、漁獲量推移等の資料について、また、サヨリ及びホンビノスガイについては研究の進捗状況について併せて報告があった。各説明の終了後に、

議長から構成員に意見を求めた。主な質疑等は以下のとおり。

- ・ 構成員から、マダイの放流場所及び系群に関する質問があり、担当者から回答があった。
- ・ 構成員から、評価に使用するデータの年数について質問があり、担当者から回答があった。
- ・ 構成員から、ホンビノスガイの減少と漁獲サイズの関係について質問があり、担当者から回答があった。

(3) その他

事務局から今後のスケジュールについて説明があった。